

別添2 受賞者一覧

●大賞(環境大臣賞)

企業名	大企業・中小企業の別	評価の対象となった取組
前田建設工業株式会社	大企業	独自の社会エコポイント制度「Me-pon(ミーポン)」を整備。社員のみならず家族の環境意識の醸成と環境活動の実践につなげている。 また、eco検定に合格した場合における受験費用等の支給や「エコ通勤」として自転車通勤者への保険代等の支給を行うなどのシステムが整備されている。
来ハトメ工業株式会社	中小企業	社員自ら交替で講師役を務め、研修資料も社員自ら作成するなど、全社一丸となって、社員の主体性や理解度を高める工夫がなされている。教育の内容も幅広。電力使用量の削減、環境法規等に加え、中小企業で取組にくいテーマである生物多様性についても取り入れている。

※いずれも事業活動グリーン化部門に該当

●部門最優秀賞

企業名	大企業・中小企業の別	評価の対象となった取組
株式会社滋賀銀行	大企業	地域の課題(琵琶湖の環境問題)に対する各活動にストーリー性を持たせ、“いきものがたり”活動として展開している点が、役職員の理解度を向上させるという点で秀逸である。また、自らの商品を環境対応型にすることで、それに関わる行員の環境意識の向上につなげている。
アセス株式会社	中小企業	月1回、自前で開催する研修会を継続して実施。その時流に合った学習を全社で取り組んでいる。森林保全等の外部での実習、地域の学校への出張授業、企業の研修協力など、研修内容も工夫されている。

※いずれも地球市民育成部門に該当。事業活動グリーン化部門は該当なし(大賞に選出)

●優秀賞

企業名	大企業・中小企業の別	評価の対象となった取組
MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社	大企業	「MS&ADみんなの地球プロジェクト」という全社的マネジメントシステムを立ち上げ、グループ全体のエコの担当、その他一般社員等幅広い関係者を対象にした取組を行っている。
株式会社ノーリツ	大企業	社長を始め、全従業員を対象にeco検定を受験させ、従業員の環境マインドを向上させ、営業上の効果も出ているように見える。会社独自の問題集を作成している。
栗田工業株式会社	中小企業	ISOの3つのシステム(9001、14001、50001)を統合した独自のQEEEnシステムを全員で運用することで、環境改善を積極的に実行する社員を育成しようとしている。
株式会社セリタ建設	中小企業	森林保全活動で出た間伐材を利用し、アロマオイルの製造・販売という6次産業化へ発展させたことで、社員のモチベーションを向上させている。
株式会社トンボ	中小企業	CO2削減クレジットの購入に伴い、真庭市と「未来につなぐ真庭の森づくり協定」を締結し、社員、家族が参加した実地体験を行っている。

●奨励賞

企業名	大企業・中小企業の別	評価の対象となった取組
ホンダエンジニアリング株式会社	大企業	やや情報過多な印象はあるが、独自の教材開発、研修スキームを組み立てている。

しずおか信用金庫	大企業	地元に着する環境保全活動を通じ、社員教育を実施している。若手職員1～3年目を運営に当たらせている点も大きい。
ユニー株式会社	大企業	従業員が地域に出張授業に出ており、教える立場、地域に役に立つ経験をすることで、モチベーションにつながり学習効果を高めている。
富士ゼロックス株式会社	大企業	ISO14001の導入教育で社員の環境意識を高め、個々の従業員が本業を通じて環境に貢献することを前面に打ち出している。
本田技研工業株式会社	大企業	オリジナルのクリーナーを利用して砂浜のゴミ拾いをするという、一見地味な活動であるが、活動を継続的に実施することで教育効果をあげている。
埼玉日本電気株式会社	大企業	社内表彰制度により、社員のモチベーションの向上を図っている点が評価できる。
日本電気株式会社	大企業	参加者は限定的であるが、生物多様性の環境教育としては先駆的であり、プログラムも常に改善を続けている。
TOTO株式会社茅ヶ崎工場	中小企業	知識、意識、行動というステップを考えて総合的なメニューとして研修を組み立てていることは注目に値する。地域のNPO活動に工場の地域社員が関わっている。
株式会社中特ホールディングス	中小企業	従業員が地域へ出て環境活動をし、それを研鑽の場と位置づけており、テーマも多岐に渡る。地域に即し実践しながら、一緒に悩み改善していくというプロセスがある。
レッドキューブ株式会社	中小企業	新人社員の教育に積極的。フリーペーパー創刊も意識向上にも役立っている。
株式会社コクヨ工業滋賀	中小企業	びわ湖のヨシを守る社員のボランティア活動を、地域を巻き込んだ上で、学習会や外来魚駆除のための釣り大会などに発展させている。
株式会社リリーフ	中小企業	農業体験という子供たちと自然とが触れ合う活動を継続的に主催し、そこに社員をボランティアスタッフとして参加させることで、モチベーションの向上につなげている。